

今回は 夏休みに行われた関ジモト大学 の報告(その44・45)です。

## ◇ オンラインセミナー「関ジモト大学2021 online」

今年度は、昨年度に引き続きオンラインセミナーを実施しました。関市で活躍する「せき・まちづくりNPOぶうめらん」が主催する「関ジモト大学online」の場をお借りして、関市内の45企業と各企業のSDGsに関わる取り組みについての話を聞き、生徒が意見交換を行いました。

## ◇ 企業紹介

### 【靴磨き専門店 LEON】

岐阜県初の靴磨き専門店 LEON。靴磨きの仕事だけでなく、自身の発達障がいについても、様々なかたちで発信しています。

【Instagram】 @leon1122it



SDGs	取 組 中								
		3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	8 働きがいも経済成長も	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	10 人や国の不平等をなくそう	12 つくも責任 つかう責任	16 平和と公正をすべての人に	17 パートナシップで目標を達成しよう

## ◇ 関ジモト大学を受けて 生徒の感想

・今まで靴磨きというと主に、海外の大通りで子供がお小遣い稼ぎにやっているというイメージしかありませんでした。しかし話を聞くにつれ靴磨きの奥深さを感じました。海外では靴磨き職人はとても高尚なイメージがあるそうです。日本で靴磨き職人になるためには技術だけでなく、知識や話術も身につけなければいけないというのが印象的で、ただの作業ではなく一種のパフォーマンスということを学びました。

・靴磨き職人という稀有な職に就かれた経緯、こだわり、発達障がいとの向き合い方などをお話頂きました。レオンさんは自身の特性をよく分析され、その中で向き・不向きについて考えられたようでした。「0か10で、やるかやらないかしかない」と発達障がいの方に多く見られる特徴を述べられていて、とても共感しました。こうしてお話を聞けていれば、今まで身近にいた特別支援学級の子にも、もっと寄り添ってあげられたかと思うと同時に、これからの関わり方に活かそうと思いました。

・従来の日本のように固定概念に囚われるのではなく、得意不得意は人それぞれなのだから、人と違ってあせらずに、さらにそれを自分の強みにしていこうと思いました。また、靴磨きは所作や話を聞くことなどのパフォーマンス的側面もあると聞いて、ただ仕事をするだけにとどまらず、さらにお客様に喜んでもらえるよう、様々なことを考えて実行することが大切だと思いました。これからは、そのことをよく頭において仕事をしていきたいと思いました。

・発達障がいの方は自分のルールがある。だから回りの人はそのルールを聞いてあげて合わせる必要がある。しかし、障がいがあるからといって甘やかしてはいけない。また、何回同じことを言っても忘れてしまうこともある。そんなときは、メモを書いてあげたり、スケジュール表を作ったりして工夫をしてあげることが大切。SNSを見て自分はなにもできないと落ち込んでしまうことがある。そんなときは、「頑張らなくてもいいよ」と優しく声をかけたい。

・障がいと向き合い、自分自身で未来を創り上げている姿にとっても感動しました。また、身近にこんな素敵な考えを持っている方がみえた事に驚き、同時にレオンさんがやりがいを持ってお仕事にされている靴磨きについても興味が湧きました。

・職人社会は縦社会で、人数が少ない分ほぼ全ての人と知り合うと聞いて驚きました。自分の個性を仕事に活かしていることを知り、周りとは違うからと隠すのではなく、それを自分のために堂々と使っていけばいいのだと学びました。

・レオンさんは発達障がいがある方で、自分に合ったお仕事を見つけられていました。レオンさんは、見たものはずっと忘れないという能力があるそうで、職人という職業は見て技術を身につけるし、お客さんを覚えられるから、ぴったりの職業だと言われていました。SDGsに関わる点で、レオンさんは、同じように障がいがある子がいる施設に行き、自身の生き方を話すという活動をされていると聞きました。私もレオンさんのような生き方もあるのだと学びました。

・私が今回のお話の中で心に残った言葉が2つありました。「障害は個性だ」と「頑張らなくてもいい」の2つです。頑張らなくてもいいと言われるだけで、救われる人がいることを知っておきたいです。私にも自閉症の弟がいるので、これからは今よりもっと弟の意思に目を向けて関わっていきたいです。

・靴磨きという仕事を今まで聞いたことがなかったので、今回お話を聞いてよかった。LEONさんは発達障がいがあり、それを武器に進んで行く人だった。靴磨きの仕事は、所作・時間・仕上げはもちろん、会話も大切だった。依頼人が悩みを吐く場所でもあるそう。本当に優しく、魂を込めて話してくださって、充実した時間だった。SNSで調べる程に興味を持った。私も自分の靴をもったら、靴磨きをお願いしたい。

・自分のマイナスとなるような障害を乗り越えて、今のレオンさんがあるのだと知れて良かったです。自分の周りに障がいのある子はいないけれど、いずれ出会うと思うので、その時にレオンさんの話を思い出したいです。また、靴磨き職人としてやっていくためには、思っていたよりも大変だということがわかりました。

・靴磨きの仕事を通してレオンさんのこだわりとか自分の気持ちを曲げないことの大切さを知れて良かったです。私は将来の夢が無くてとても悩んでいるのですが、自分のこだわりとか好きなことはたくさんあるので、それを大切にして、やりたいと思ったことはどんどん口に出してみようと思いました。自分と他人は違うということを頭に置いて、自分の意見を主張できるようになればいいなと思います。

## ◇ 企業紹介

【郡上観光 株式会社】

大滝鍾乳洞と郡上八幡「紙刃楽(しばらく)」を運営しています。大滝鍾乳洞では、東海地区最大級の石灰洞窟を中心に、釣り堀や流しそうめん等を楽しめるレジャー施設です。「紙刃楽」は、昨年郡上八幡の街中にオープンした刃物と美濃和紙のお店です。

【HP】 <http://www.ootakicave.com/>



SDGs	今後の目標	
------	-------	--

## ◇ 関ジモト大学を受けて 生徒の感想

・以前から観光業に興味があり、将来何か関係のある仕事に携わりたいと思っていたので、今回お話を聞くことが出来てとても良かったです。観光業において大切なことは、観光に来た人にお金を落としてもらうことだと聞きました。今からでも様々な案を考えることが出来ると思うので、将来に向けて頑張っていきたいです。

・河合さんから、郡上の観光業について話を聞き、どのような工夫をされているかがわかった。自分が郡上に観光に行った時、昔ながらの街並みやそこにしかないお店や食べ歩きなどができ、楽しかったことを思い出しました。そこには、地元の人達を中心として街づくりをしていきたいという思いがあったことがわかりました。

・経済に興味があったので観光分野の専門家の話が聞いてよかった。今はInstagramやYouTube で宣伝をしているらしく、今の時代は紙よりネットの方がより広く多くの人に知ってもらえると分かった。また、どれだけたくさんのお客さんが来ても、そこでお金を使ってくれなければ意味がなく、どうお金を使ってもらうかを考える必要があると知った。

・僕がこの講座で学んだことはどんなことがあっても諦めないということの大切さです。コロナ禍で観光業界は大きなダメージを受けています。しかし、そこで諦めて他の事業をするのではなく、このコロナ禍だからこそ何が出来るのかを考え、それを行動に移しているのがすごいと思いました。

・実際に郡上の観光事業についての話を聞いて、観光とは人を呼び寄せることが目的ではなく、人を呼び寄せて経済効果を生むことが目的だということが分かった。また、そのためにそこできかない特別な体験を用意する必要があるが、特別な体験は自分たちの当たり前の中にあることもあるということが分かった。過去の観光事業の取り組みや失敗を内側の視点から聞くことが出来て面白かった。

・お話を聞いていると、昔ながらの風景や伝統を残すために色々な取り組みをしているとおっし

やっていました。近代的なものを取り入れた方が、観光客が集まってくるのではないかという質問に、郡上を近代化するつもりはなく、今の街並みをこれからも守っていきたいとおっしゃっていました。今の時代は人間の手によって様々なものが作られ、自然が作ったものが減って来ているように感じるし、近代的だったらいいという考え方になってきている部分があると思います。初心にかえり、近代化という概念にとらわれず、その地特有の自然や土地を生かしていくことがSDGsにも繋がってくるのではと改めて思いました。

・僕は長良川鉄道で夏は郡上の吉田川は、冬はバスで郡上のスキー場に行き、郡上が好きになったので郡上観光さんの講座に申し込みました。元々は無名の地域だったのにも関わらず、努力によって人気の観光地へと姿を変えたことに驚きました。当たり前のことこそ魅力があるという言葉が残りました。

・観光業についてあまり知らなかったので、PRの仕方や観光業に対する考え方などを聞く事ができて勉強になりました。住んでいる人にとっては当たり前の事でも、第三者から見ればその土地の魅力であるという話を聞いて、様々な角度から物事を捉える事が重要だと思いました。また、郡上の古くからある街並みを残していくことがSDGsにも繋がっているという事が分かりました。

・観光業界は新型コロナウイルスによって利益が減っている中で、PRしているそうです。私が印象に残ったのは空き家の活用についてです。これは空き家を移住者に使ってもらい、ゲストハウスとして利用するというものです。空き家は手入れが行き届かず、地元の人に迷惑がかかる場合があります。それを観光などに生かしていて素晴らしいと思いました。またPRする上で気をつけていることはInstagramやYouTubeなどのSNSを通して、たくさんの人の目に留まるような工夫をすることだそうです。

・郡上観光で、沢山の工夫をしている事が分かった。例えば、人を惹きつけるために色々なサイトを使って発信力を高めていたり、観光戦略を立てたりなど。また、観光を発展させていくためには、その土地ごとの特徴を守り、時代につながることを大切にしている事が分かった。観光業について学ぶのは初めてだったので、仕事に対するやりがいや楽しさを知ることができた。